

第2期京都府教育振興プランの見直しに係る 理念及び視点等について

第1回第2期京都府教育振興プラン中間改定に係る検討会議
R8.4.28

基本理念の検討

第2期京都府教育振興プラン（以下「現行プラン」と言う。）は、「目指す人間像」「はぐくみたい力」「教育に関わるすべての者が大切にしたい思い」を京都府の教育の基本理念とし、その実現に向け、すべての施策に共通して持つべき視点として3つの施策推進の視点を掲げている。

目指す人間像

めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人

はぐくみたい力

主体的に学び考える力 / 多様な人とつながる力 / 新たな価値を生み出す力

教育に関わるすべての者が大切にしたい思い

包み込まれているという感覚 / 自己肯定感

施策推進の視点

- 多様な子どもたち一人一人を大切に、誰一人取り残すことなく、個性や能力を最大限伸ばす教育
- 幼児期から生涯にわたり、校種等を越えて切れ目なく学ぶことができる教育
- 学校・家庭・地域がコミュニティとしてそれぞれの強みを活かしてつながる教育

基本理念の検討

中間改定における基本理念の検討にあたっては、現行プラン策定以降の社会状況の変化や新たな課題等を踏まえて、京都府の教育の目指す姿を検討する必要があると考える。

今回、①教育をめぐる主な現状・課題認識、②現行プラン策定以降の国の教育行政の動向、③現在検討されている次期学習指導要領の方向性、④府の教育施策の動向、⑤府の政策の方向性、⑥市町教育委員会の意見、⑦教育現場で求められているものから、これからの時代に求められるものは何か、現行プランの基本理念に追加すべきものは何か、という視点で検討を行った。

検討にあたり考慮すべき事象等

- ①教育をめぐる主な現状・課題認識
- ②現行プラン策定以降の国の教育行政の動向
- ③現在検討されている次期学習指導要領の方向性
- ④府の教育施策の動向
- ⑤府の政策の方向性
- ⑥市町教育委員会の意見
- ⑦教育現場で求められているもの

①教育をめぐる主な現状・課題認識等

現行プラン策定以降の教育をめぐる主な現状や課題認識等

検討にあたり考慮すべき事象等

- 少子化・人口減少や高齢化が進む中での魅力ある教育の推進（児童生徒数の減少）
- 将来が予測困難なVUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- 変化が激しい時代において子どもたちに求められる資質・能力の育成
- 学校教育を学校内に閉じず、目標を社会と共有・連携した教育の推進
- AIの社会実装やIoTの発展、DX化への対応、Society5.0の到来
- SDG s の推進（持続可能な開発目標）
- 多様な子どもたちに対応するための学びの多様化と柔軟な選択が可能な環境の整備
- ウェルビーイングの重要性

②国の教育行政の動向（R3～R7）

現行プラン策定以降、国の教育行政においては様々な動向があり、それぞれで求められている考えを踏まえて検討する必要があると考える。

令和の日本型教育（R3.1中教審答申）

- ・ 個別最適な学び
- ・ 協働的な学び
- ・ 履修主義と修得主義等の適切な組み合わせ

新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（R3.1）

- ・ 障害者基本法等の関連法の整備
- ・ 障害のある子どもへの支援ニーズの多様化

生徒指導提要の改訂（R4.12）

- ・ 問題行動を未然に防ぐ「積極的な生徒指導」
- ・ 発達支持的生徒指導
- ・ 課題予防的生徒指導

COCOLOプラン（R5.3）

- ・ 誰一人取り残されない学びの保障
- ・ みんなが安心して学べる場所

第4期教育振興基本計画（R5.6）

- ・ 持続可能な社会の創り手の育成
- ・ ウェルビーイングの向上
- ・ 全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現
- ・ 教育デジタルトランスフォーメーションの推進

②国の教育行政の動向（R3～R7）

今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（R6.9論点整理）

<これからの社会像>

- ・グローバルな協働
- ・生成AIの発展
- ・学校の本質的な役割の再認識

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（R6.12 中教審諮問）

<子供たちを取り巻くこれからの社会の状況>

- ・不確実性の高まり
- ・マルチステージの人生モデルの転換（自らの人生を舵取りできる力）
- ・全ての子ども豊かな可能性の開花

<学校現場の状況>

- ・主体的・対話的で深い学び

いわゆる高校無償化についての3党合意（R7.12）

- ・私立高等学校の授業料無償化
- ・公立高校への支援の拡充（教育の質の確保等）

③次期学習指導要領（論点整理）

令和7年1月から令和8年度にかけて、中教審において「深い学び」や「柔軟な教育課程」などをテーマとして次期学習指導要領の検討が行われている。

これまでの検討における論点整理において、今後の検討の基盤となる基本的な考え方が示されている。

三つの方向性

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育むため、

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実装（Excellence）
- ②多様性の包摂（Equity）
- ③実現可能性の確保（Feasibility）

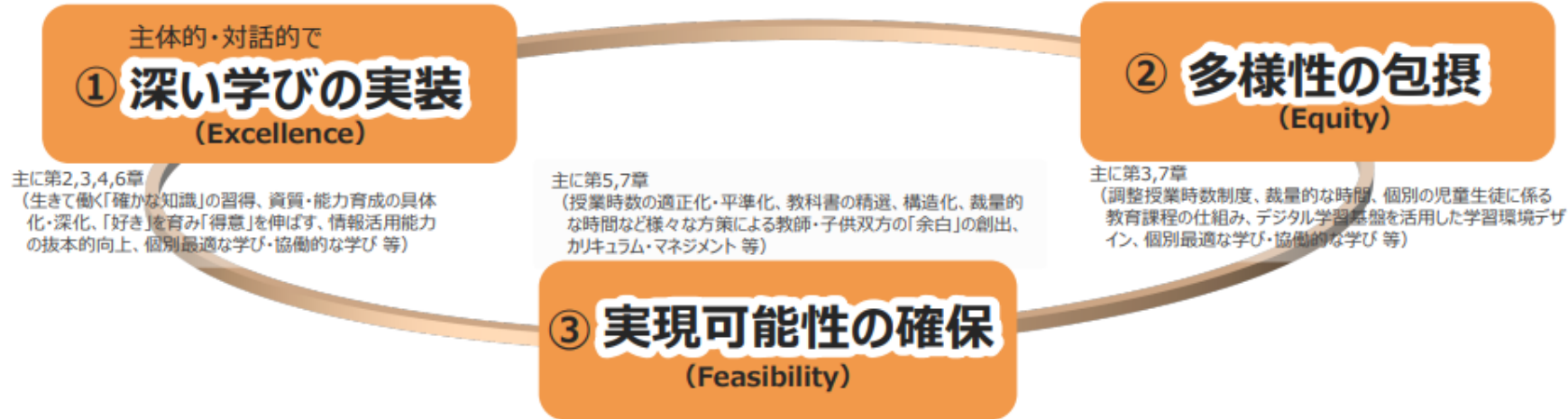
自らの人生を舵取りする力と社会の創り手育成

現代社会においては、独自の発想や視点に価値がおかれるようになってきており、予測困難な事象が発生する社会において、しなやかに「自らの人生を舵取りできる力」が不可欠となりつつある。

また、デジタル時代に主体的に社会参画する「民主的な社会の創り手」の育成も喫緊の課題である。

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
 「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに



生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる **民主的で持続可能な社会の創り手** をみんなで育む

④府の教育施策の動向

現行プラン策定以降、府の教育をめぐる主な施策の動向について

- 府立高校の在り方ビジョン（R4.3）
- 京都府デジタル学習支援センター開設（R4.4）
- 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～（R5年度開始）
- 魅力ある府立高校づくり推進基本計画（R5.12）
- 京都府学校部活動及び地域クラブ活動推進指針（R6.3）
- 第2期スポーツ推進計画（R6.4）
- 1人1台端末導入（R3年度開始）
- 府立高校の再編整備の考え方（R7.3）
- 府立高校魅力化推進施設・設備整備基本構想（R7.3）
- 教職員の働き方改革推進計画（R7.3）
- 京都府子どもの読書活動推進計画（第五次推進計画）（R7.3）
- 京都府公立高等学校の新しい入学者選抜制度に係る基本方針（R7.4）
- 京都府災害時学校支援チーム「D-EST京都」発足（R7.4）
- 高校教育課内に教育共創室を設置（R7.4）
- 京都府立大学の系属高校化（北桑田・農芸）（R8.4開始）

⑤府の政策の方向性

現行プラン策定以降の、京都府全体の主な政策の方向性

1 人とコミュニティを大切にする共生の京都府

- ・ 移住の促進及び移住者等の活躍の推進に関する条例(R4.4.1施行)
- ・ 子どもを虐待から守る条例(R4.4.1施行)
- ・ 子育て環境日本一・京都の実現に向けた取組の推進に関する条例(R6.4.1施行)
- ・ 地域における日本語教育推進プラン(R6.12改定)
- ・ 子どもの貧困対策推進計画(R7.3改定)
- ・ 人権尊重の共生社会づくり条例(R7.4.1施行)

2 文化の力で新たな価値を創造する京都府

- ・ 文化が活きる京都の推進に関する条例(R6.7.8施行)

京都府全体として、今後の人口減少社会を意識しつつ、
人と人とのつながり、京都らしさを大切にする政策が大きく進展

教育委員会としても、府の目指す政策を、教育面から実現していく視点から検討

⑥市町教育委員会の意見

令和7年度市町(組合)教育委員会教育長懇談会における各教育長意見

<全般>

- 「わかる」だけでなく「できる」の視点を持った教育が必要
- 現行プランの概念はぜひとも残してほしい
- 基本計画は肥大化傾向があるため、一定進んだものは削除する視点も大切
- 人口小規模校での教育についても考えていかなければならない
- 都市部と地方部での二つの視点で考えていくことも必要ではないか
- 当たり前のようにやってきたことに疑問を持ち、見直していく必要がある

<その他ご意見いただいた論点>

- ・ ICTとの関わり方
- ・ 主体的な学びや行動
- ・ 社会・地域とのつながり
- ・ インクルーシブ教育 等

⑦教育現場で求められているもの（教育庁内会議検討）

これまでの教育庁内会議において、それぞれの業務上の現状や課題、経験等から、これからの時代に沿った基本理念にするために必要な視点等について検討を行った。

基本理念に求められるもの

- ともに学び合う中で子どもを地域で育てるという視点
- 「個人の幸せ」の観点に「地域や社会の幸せ」、その方策としての「多様な人との協働」の観点や他者の要素を追加
- 包み込まれているという感覚を持った社会や大人に育てられた子ども自らが包み込む存在になることを目指すこと
- 「包み込まれて」安心するという受け身になるのではなく、主体的に学びに対する意欲
- 周りや社会との関わりの中で、自分の存在が必要だという「自己有用感」
- 共生社会の実現、インクルーシブ教育システムの構築
- 知識・技能の習得か活用かだけでなく、探究的な要素も含めた複眼的な視点へ
- 公共心や公德心
- 自ら切り拓く力の育成

中間改定における基本理念

①～⑦を踏まえて、これからの時代に求められる人材や能力、考慮すべき社会の動向について検討したところ、今回の改定では、特に「**深い学び**」「**自分で考える力**」「**情報活用能力の向上**」「**自分も社会も豊かにできる力**」「**多様性・共生社会**」といった概念が重要になると考えられる。

一方、現行の基本理念の「目指す人間像」や「はぐくみたい力」は、将来を見据えた場合でも、先見性・的確性は揺るがず、新しい重要概念を拡張・包含して捉え直し、再定義していくこととしてはどうか。

目指す人間像

- **生成AIの発展**
- **DXの進展による学びの変容**
- **教育DXの推進**
- 人口減少・少子高齢化・長寿化
- 不確実性の高まり

- **自ら切り拓く力**
- **自らの人生を舵取りする力**
- 持続可能な社会の創り手
- マルチステージの人生モデルの転換

- **ウェルビーイングの向上**
- 地域や社会の幸せ
- 多様な人との協働
- 共生社会の実現
- 持続可能な社会の創り手
- インクルーシブ教育システムの構築
- 民主的な社会の創り手
- 協働的な学び

めまぐるしく変化していく
社会

変化を前向きにとらえて
主体的に行動

よりよい社会と幸福な人生を
創り出せる人

中間改定における基本理念

はぐくみたい力

- 「主体的・対話的で深い学び」の実装
- 主体的に生涯にわたり学び考え続ける力
- 個別最適な学び・協働的な学び
- 自ら切り拓く力
- シビックプライド

主体的に学び考える力

- 地域や社会とのつながり
- 多様な他者との協働
- インクルーシブ教育システムの構築
- 公共心・公德心
- 利他の心、思いやり
- 他者の視点
- 民主的
- 共生社会の実現
- 多様性の包摂
- 民主的な社会の創り手
- 協働的な学び

多様な人とつながる力

- しなやかに自らの人生を舵取りする力
- 個別最適な学び・協働的な学び
- レジリエンス(こころの弾力性)
- 失敗を恐れず何度でも挑戦できる力
- 自ら切り拓く力
- 持続可能な社会の創り手

新たな価値を生み出す力

中間改定における基本理念

「教育に関わるすべての者が大切にしたい思い」は、特に現行プランの中で京都府の独自性が表れている部分でもあるため、この表現は変えずに継承していくことが適当ではないか。

この表現の中にも①～⑦を踏まえた、これからの時代に求められる人材や能力、考慮すべき社会の動向を包含して、再定義していくこととしてはどうか。

教育に関わるすべての者が大切にしたい思い

- **地域や社会とのつながり**
- 包み込む人材の育成
- 課題予防的生徒指導
- 誰一人取り残されない学びの保障
- みんなが安心して学べる場所
- 障害者基本法等の関連法の整備
- 全ての子どもの豊かな可能性の開花
- 学校の本質的な役割の再認識
- 多様性の包摂

包み込まれているという感覚

- **ウェルビーイングの向上**
- 自己有用感
- 利他の心
- 発達支持的生徒指導
- 履修主義と修得主義等の適切な組み合わせ

自己肯定感

新たに追加したい視点①（公教育の役割）

現行プランにおける基本理念については、「目指す人間像」や「はぐくみたい力」のように、府の特色として、子ども中心の視点で示されているが、教育を取り巻く現状や課題を踏まえた際には、現基本理念に当てはまらない「公教育の役割」という視点からの施策検討も必要となるのではないか。

基本理念だけで捉えきれない教育を取り巻く重要な現状や課題

- ・人口減少社会における担い手の確保
- ・コロナ禍で改めて見直された学校の果たす役割
- ・いわゆる高校授業料無償化の中であって、果たすべき公立高校の役割

従来から、**公教育の役割と位置付けてきた**「どのような地理的、経済的条件にある子どもたちに対しても質の高い学びを提供する」という役割を、プランの視点として明示するとともに、これからの社会で求められる新たな公教育の役割を「**施策推進の視点**」に加えてはどうか。

急速に進行する少子高齢化・人口減少社会においては、**社会に参画し、社会の担い手となる人材を育成することも、公教育の重要な役割と位置付ける必要があると考える。**

そのためには、**京都府に受け継がれてきた伝統や文化を学び、京都で育ったことを誇り（愛郷心・シビックプライド）と、グローバルな視座をもつ人づくりを進めることが重要ではないか。**

新たに追加したい視点②（デジタル時代の教育）

現行プランでは、教育環境日本一プロジェクトの共通アプローチとして「ICTの積極的な活用」が掲げられているが、活用するだけでなく、**これからの教育の前提（基盤）となるものであることを示す必要があるのではないか。**

基本理念だけで捉えきれない教育を取り巻く重要な現状や課題

- ・急速に進化する生成AIやデジタル技術
- ・超スマート社会の到来（Society5.0）



生成AIの存在が前提となる中、次の3つを「デジタル時代の教育」として、プランの「施策推進の視点」に追加して明示

- 1 SNSをはじめとした情報が溢れている社会において、情報を読み取り取捨選択する力や、情報の真偽を見極める力、安全性・倫理性を含め情報を活用・発信する力の育成
- 2 1人1台端末が実現した中、次の段階としてのデジタル技術を活用した個別最適な学びの実現。教職員のICT活用スキルの向上
- 3 校務のDX化による、抜本的な学校の教務・事務の在り方の見直し

特に1の子どもたちのデジタルリテラシーについては、今後の民主主義社会を支える重要な基盤となるものであり、他者の尊厳や公共性への配慮（他人の不幸の上に自分の幸せは成り立たない）についても言及が必要だと考える。

視点の明示（つながる教育=産学民との連携）

現行プランでは、

「学校・家庭・地域がコミュニティとしてそれぞれの強みを活かしてつながる教育」を3つ目の施策推進の視点として提示

基本理念だけで捉えきれない教育を取り巻く重要な現状や課題

- ・ 学校だけで閉じない教育の在り方の検討
- ・ 地域の人材育成を、地域とともに考えることが必要
- ・ 教育を「公」だけで行うのではなく産業界・大学等（研究・学術）・民間団体との連携・協働が必要

現行プランでは、本文で以下の内容を記載している。

- ・ 地域の住民、地域に立地する企業や大学等が子どもの教育に関わることは、人と人との新しい縁や子供の地域に対する関心・愛着を生み、ひいては地域の課題解決や地域振興にもつながります。
- ・ 子どもたちが成長し幸せに暮らしていけるまちづくりに向けて、地域は、「支援」にとどまらない学校との「連携・協働」を目指すことが必要です。



プランの重要な視点の一つとして「学校・家庭・地域」に加え
「産・学・民」との連携を明示してはどうか

まとめ【改定における基本理念の見直し】

目指す人間像

めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人

はぐくみたい力

主体的に学び考える力 / 多様な人とつながる力
/ 新たな価値を生み出す力

教育に関わるすべての者が大切にしたい思い

包み込まれているという感覚 / 自己肯定感

【拡張・再定義】

現行プランの記載は変更しないが、改定に当たっては、新たに重要となる概念を含めて、拡張・再定義する。

施策推進の視点

- 多様な子どもたち一人一人を大切にし、誰一人取り残すことなく、個性や能力を最大限伸ばす教育
- 幼児期から生涯にわたり、校種等を越えて切れ目なく学ぶことができる教育
- 学校・家庭・地域がコミュニティとしてそれぞれの強みを活かしてつながる教育

【追加】

- 公教育の役割
 - デジタル時代の教育
- 【明示】
- 産学民との連携